当評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考える子ども　○心ゆたかな子ども ○最後までやりぬく子ども　○健康な子ども			目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもを通わせてよかったと思える学校 学校スタッフにとって、仕事にやりがいを感じられる学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども ・人権尊重の精神に富む教師　保護者や地域との連携に努め、誰からも慕われる教師
前年度までの本校の現状	成果	・外国語科や外国語活動と中学校の英語科の連携授業や小中合同の防災訓練の実施など、小中連携・ 防災教育の充実を図ることができた。 ・tetoruでの保護者に向けた情報発信が定着した。		課題	・教員の授業力・指導力の向上、同時に学習用タブレットやiPadを活用した授業の展開を図り、児童にとって分かりやすい授業を実施し、基礎的学力の向上を図ること。 ・特別支援教育の理解と充実を図ること。（特別支援教室や、ことばやきこえの教室等、適切な支援につなげていくこと、教職員の理解を深め通常学級での支援の引き出しを増やすこと）

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎学力の定着	○学力調査や診断テスト結果の分析 ○放課後の補習教室 ○教師の授業力向上	○全国学力・学習状況調査の結果　全国平均以上 ○江戸川区学力調査の結果　全国平均以上 ○東京ﾊﾞｰｼﾞｮﾝﾄﾞﾘﾙ(算数科)の評価テスト正答率８割以上 ○毎週水曜日担任による補習の実施、週に１度のEDOスク実施 ○年間６回による校内研究授業 ○OJT研修（月１回、夏季） ○小中授業連携ウィーク（月に１回１週間）	70%		B	○全国学力・学習状況調査では全国平均を国語は6.8ポイント、算数は６ポイント下回った。しかし昨年度の国語－7.7ポイント、算数－6.4ポイントに比べ、全国平均との差は減少させることができた。学力向上委員会で2学期以降の学習の進め方について検討し2学期からの授業改善に向けて計画を立てた。 ○校内研究授業やOJT研修、小中授業連携ウィークは計画通りに実施し、教員の授業改善につながっている。	B	○人数が多いため、学習が得意な子もいれば、苦手な子もいると思う。なかなか数字には結びつかないとは思うが、まずは勉強は楽しい、と思ってほしい。 ○基礎学力はとても大事なので、定着を図ってほしい。 ○保育園での体を動かしたり、遊んだり、絵本を読んだり…といった経験が、学びの種となり小学校で芽がでて花開いていくと感じている。今後も連携をしていきたい。					
	○読書科の更なる充実	○確実な読書科の授業の遂行 ○図書館ボランティアや葛西図書館職員による読み語りやお話集会の充実	○年間読書の本の冊数 ・低学年100冊以上 ・中学年90冊以上 ・高学年60冊以上 ○「調べる学習コンクール」への参加30人以上	85%		B	○図書ボランティアの読み語りを1学期に４回実施した。また、中休みや昼休みに読み語りシアターを実施し、児童の読書への興味関心を高めることができた。	A	○冊数も多く子どもたちは恵まれた環境にあると思う。LASの読み語りも充実している。					
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	○体育科授業の充実 ○「なわ跳びウィーク」や外遊びの実施 ○体育的行事や取組 ○歯みがき指導の実施	○体力テストの結果 ・どの種目においても東京都の平均を上回る。 ○持久走記録会のタイムの向上 ○年度末の児童アンケートによる回答 ・体を動かすことが心地よいと肯定的に回答する児童85%以上	75%		B	○体力テストの結果がまだ出ておらず、体育関係の行事は2学期後半からの実施が多いので評価は難しい。 ○休み時間になると元気に校庭や屋内運動場で遊ぶ児童が多い。 ○歯みがき指導は来年度に向けて計画を立てている。フッ化物洗口は６年生で取り組んでいる。	B	○休み時間や放課後など、遊びを通じて体を動かす場が多くあると思うが、小中併設校であるため難しいとも感じている。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	○特別支援教育の推進	○巡回指導員主導の研修会の実施 ○コーディネーターや特別支援専門員を中心とした特別支援教育の組織化	○研修会の回数 ・年間3回実施 ○特別支援教室を退室する児童の数 ・年度内に5人 ○教職員へのアンケート ・特別支援教育が進んだと答える教職員が80%以上	75%		B	○校内委員会で児童の様子を共有し、支援が必要な児童には特別支援教室への入級手続きを行い指導を開始することができた。また、特別支援教室を退級する児童は１学期末に２名であった。今後も通常学級での様子を見守っていく。	B	○専門機関と連携し、特別支援教育を様子をより充実したものにしてほしい。					
不登校・いじめ対応の充実	○子どもたちの健全育成に向けた取組	○全教職員による児童理解の充実 ○不登校児童分析シートの活用 ○組織的且つ確実ないじめへの対応	○不登校児童の人数 ・年度末における不登校児童数を0に近づける。 ○いじめ案件の未解決数 ・年度末には未解決を０にする。 ○児童への年度末アンケート ・学校が楽しいと肯定的に回答する児童が90%以上	75%		B	○不登校児童は７名である。担任だけでなく、SSWや関係機関と連携して今後の見通しを立てていく。 ○いじめの未解決案件は現在のところは０であるが、今後も児童の様子を見て、早期発見を心掛けていく。	B	○不登校・いじめの原因を分析し、未然防止を考える必要があると考える。					
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○自校（園）の取組の積極的な発信	○定期的なホームページの更新 ○年３回の土曜日の学校公開の実施	○保護者への学校評価アンケート ・「開かれた学校」「学校は情報を発信している」という項目において、肯定的な回答が95%以上	75%		B	○ホームページを定期的に更新している。今後も児童の様子を発信していく。 ○tetoru発信を常時化し、保護者へ確実に情報を発信する。	A	○tetoru配信が活発に行われており、情報発信されている。					
	○学校関係者評価の充実	○年３回の学校評議員会の実施	○学校関係者評価の結果 ・年度末に学校関係者評価の内容に関して、肯定的な回答が85%以上	80%		B	○学校評議員会でいただいたご意見をもとに、今後の取組を改善したり、見直したりしていく。	A	○活発に意見されており、改善に取り組んでいる。					
特色ある教育の展開	○小中連携教育の更なる推進	○小中連携した教員の授業改善 ○中学生から小学生に教える活動	○児童や教職員へのアンケート結果 ・小中連携を行うことで満足感を得たという肯定的な回答が80%以上	85%		B	○小中連携授業ウィークとして１か月に１週間、小中の教員が互いに授業を見合う機会を設ける。 ○７月１５日に中学校の授業見学と部活動体験を実施、中学校生活への関心を高めた。 ○夏季休業日中に小吹奏楽クラブと中吹奏楽部で合同練習を行ったり、10月には体育大会に向けて小中合同練習を行ったりと、中学生が小学生に教える機会を設け小中連携を図ることができた。	A	○中学生がものすごく落ち着いていて小学生の手本となっている。 ○中学校の見学・部活動体験、防災体験会など、小中併設の特色が生かされていると感じる。					
	○防災教育の充実	○防災体験会の実施	○参加児童の人数 ・50人以上の参加 ○実施後のアンケート結果 ・肯定的な回答が90%以上	85%		B	○防災体験会では、参加児童43人が中学生とともに積極的に取り組む姿が見られた。地域防災の担い手として働けるよう、小中学生の段階から体験を通して興味・関心をもたせていく。	A	○葛西小中の防災機能と備蓄品について学び体験することは大事であり、防災体験会の開催に感謝している。 ○地域の関係を密にし災害があった時は連携していかなければならない。学校とも連携していければ。					